



路上で故障したときは	146
エンストで始動できなくなったときは	146
走行中、警告灯が点灯したときは	147
工具・スペアタイヤ	148
パンクしたときは	151
オーバーヒートしたときは	156
バッテリーがあがったときは	157
けん引してもらおうときは	158
キーを閉じ込んでしまったときは	159
事故がおきたときは	159

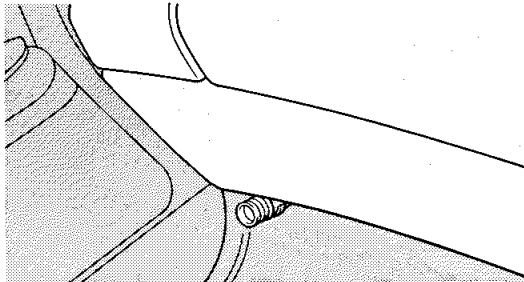
路上で故障したときは

- 車を路肩に寄せ、非常点滅灯を点滅させます。

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。

- 緊急を要するときは発炎筒で合図します。

- 助手席足元に備えつけてあります。



- 発炎時間は約5分間ですので非常点滅灯を併用してください。
- 本体に表示してある有効期間のきれる前にトヨタ販売店でお求めください。



注意

- お子さまにはさわらせてないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ガソリンなどの可燃物の近くでは使用しないでください。引火するおそれがあり危険です。
- 使用中は顔や体に向けたり、近づけたりしないでください。
- トンネル内などでは使用しないでください。煙で視界を悪くするので危険です。トンネル内などでは非常点滅灯を使用してください。

- 困ったときはトヨタ販売店へご連絡ください。

「整備手帳」巻末のトヨタサービス網をご覧ください。

エンストで始動できなくなったときは

次の方法で安全な場所まで移動してください。

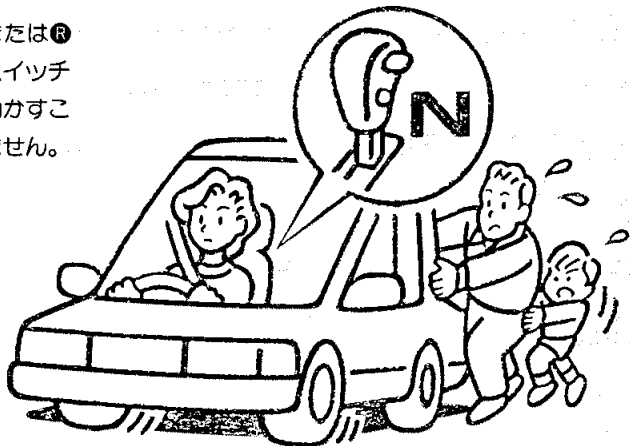
- 付近に人がいるときは押しもらう。(チェンジレバーは①で。)
- マニュアル車はギヤを①(②でもよい)またはRにいて、クラッチを踏まずにエンジンスイッチをSTARTの位置で保持すれば、車を動かすことができます。オートマチック車はできません。



処置

踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。

緊急を要するときは発炎筒を使用してください。



走行中、警告灯が点灯したときは

	<p>充電警告灯</p>	<p>このまま走るとバッテリーあがりやオーバーヒートを招くため、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。</p>
	<p>油圧警告灯</p>	<p>このまま走るとエンジンを破損するおそれがあるため、ただちに安全な場所へ停車しエンジンを止め、トヨタ販売店へご連絡ください。</p>
	<p>排気温警告灯</p>	<p>枯れ草などの燃えやすいものがない場所に停車し、エンジンを止めて冷やします。再始動して消灯すれば走行できます。再び点灯する場合はそのまま使用せず、トヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>ブレーキ警告灯</p>	<p>このまま走るとブレーキが効かなくなるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。</p>
	<p>エンジン警告灯</p>	<p>エンジン電子制御システムに異常があるため、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>燃料・水分離器 水位警告灯</p>	<p>このまま走るとエンジンを破損するおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車しエンジンを止め、トヨタ販売店へご連絡ください。</p>
<p>T-BELT</p>	<p>タイミングベルト 交換警告灯</p>	<p>このまま走るとタイミングベルトが切れてエンジンを破損するおそれがあるため、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>ABS警告灯</p>	<p>システムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

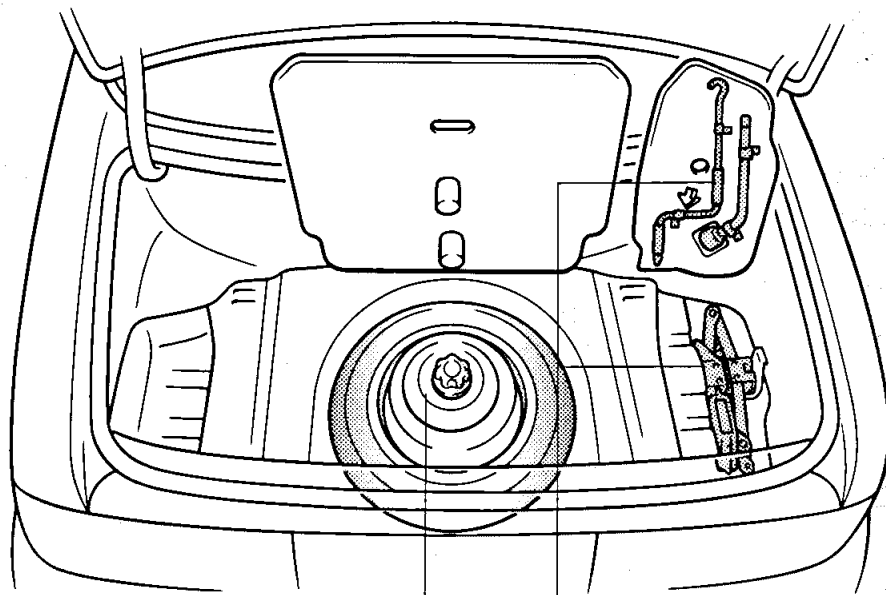
工具・スペアタイヤ

工具、ジャッキ、ジャッキハンドル、スペアタイヤは、トランクに格納されています。



注意

- 工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。室内などに放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車に搭載されているジャッキはタイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外、使用しないでください。
- 車に搭載されているジャッキは、お客様のお車専用です。他の車に使用したり、他の車のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると思わぬ事故につながるおそれがあります。

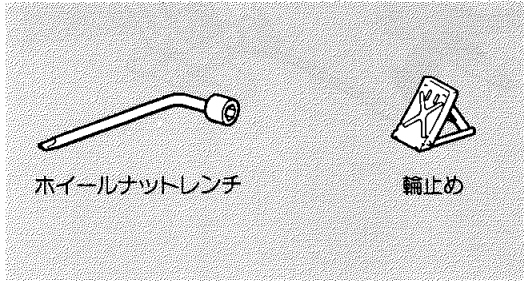


スペアタイヤ
(150ページ参照)

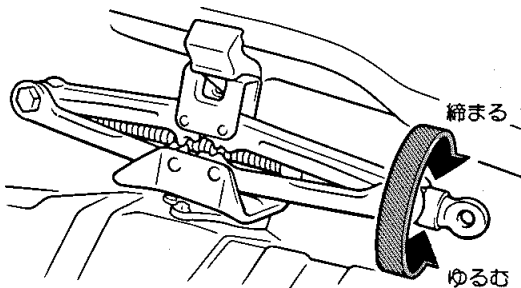
工具とジャッキ
(次ページ参照)

工具とジャッキ

- ホイールナットレンチ、ジャッキハンドルはフタの裏に取りつけられています。
- 輪止め袋の中には輪止めがはいつています。



■ジャッキの取り出し方

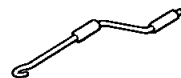


- ジャッキをゆるめてははずします。
- 格納するときはジャッキが固定するようにかみあわせて締めます。

■ジャッキアップのしかた

ジャッキアップをするまえに

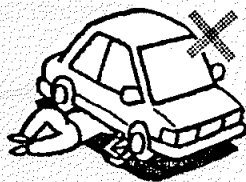
- ①交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動します。
 - パーキングブレーキをしっかりかけエンジンを止めます。
 - チェンジレバーをマニュアル車は1速、オートマチック車はPの位置にします。
 - 非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。
- ②ジャッキ、スペアタイヤ、以下の工具を取り出します。
 - 輪止め
 - ジャッキハンドル





注意

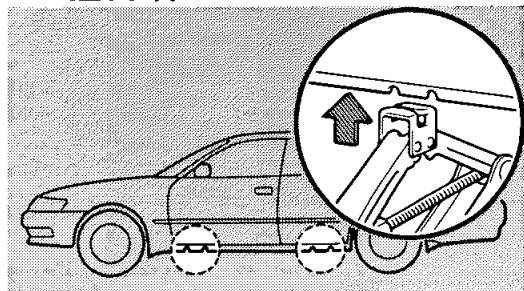
- ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。➡ 152 ページ参照
- ジャッキが確実にジャッキセット位置にかかっていることを確認してください。ジャッキセット位置以外にかかっていると、車体がへこんだり、ジャッキが倒れてケガをするおそれがあり危険です。
- ジャッキアップしたら車の下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキがはずれると大変危険です。



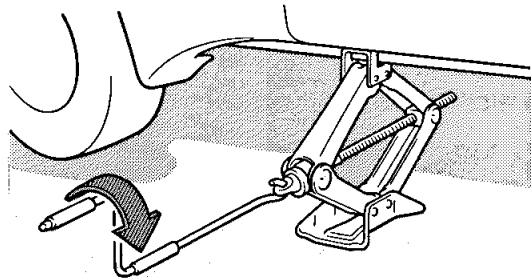
- 人を乗せたままジャッキアップしないでください。
- ジャッキアップするときはジャッキの上や下に物をはさまないでください。
- ジャッキアップしているときはエンジンをかけないでください。

1 地面の平らな固くて安定したところにジャッキをおきます。

2 ジャッキを手でまわしてジャッキセット位置まで上げます。



3 ジャッキハンドルを使用してタイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップします。



スペアタイヤ



アドバイス

ツアラーVは前後輪でタイヤサイズが異なりますが、スペアタイヤには前輪と同じサイズのタイヤが搭載されています。

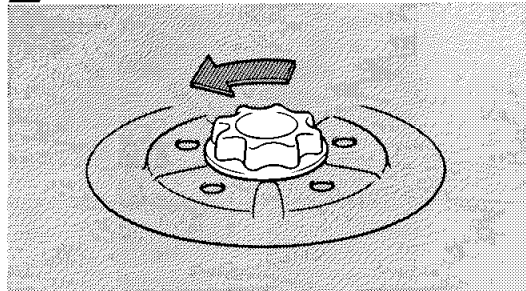
このスペアタイヤは、前後輪に使用できますがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。

パンクしたタイヤは、ただちに修理して、スペアタイヤとつけ替えてください。

■取り出し方

1 カバーを取ります。

2 ハンドルをまわしてタイヤを取り出します。



タイヤが確実に固定されていることを確認します。

パンクしたときは

スペアタイヤへの交換

■応急用タイヤについて★



注意

●応急用タイヤを装着しているときは100 km/h以上で走行しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。応急用タイヤは、タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。パンクしたタイヤはただちに修理して、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。



標準タイヤ



応急用タイヤ

●車に搭載されている応急用タイヤは、お客様のお車専用です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使用したり、他の車の応急用タイヤをお客様のお車に使用しないでください。走行に悪影響がでて思わぬ事故につながるおそれがあります。

●応急用タイヤを装着して突起物などをのりこえるときは、標準タイヤを装着しているときと同じ感覚で運転しないでください。応急用タイヤ装着時は標準タイヤ装着時に対し車高が変化します。同じ感覚で運転すると車をぶつけるおそれがあります。

●応急用タイヤにタイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体側に当たったり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。雪道、凍結路で後輪がパンクした場合は、応急用タイヤを後輪に使用せず、前輪に使用し、はずした前輪を後輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。

●LSD装着車は後輪に応急用タイヤを装着しないでください。後輪がパンクしたときは応急用タイヤを前輪に使用し、はずした前輪を後輪に装着してください。

●応急用タイヤの空気圧はときどき点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。空気圧: 4.2 kgf/cm² (走行前のタイヤが冷えているとき)

空気圧が不足している場合や調整ができないときは、ひかえめな速度で走行してください。

—タイヤ交換をするまえに—

①交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動します。

●パーキングブレーキをしっかりとかけエンジンを止めます。

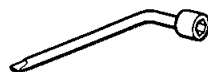
●チェンジレバーをマニュアル車は1速、オートマチック車はPの位置にします。

●非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板(または停止表示灯)を使用します。

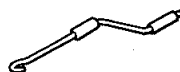
②ジャッキ、スペアタイヤ、以下の工具を取り出します。→149ページ参照

●輪止め

●ホイールナットレンチ



●ジャッキハンドル



③センターキャップ、ホイールキャップをはずします。

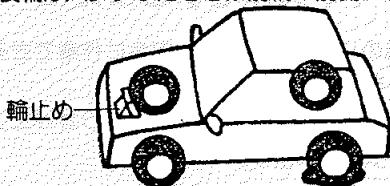
→154、155ページ参照

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

7

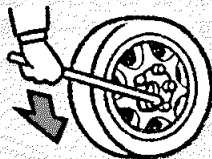
パンクしたタイヤと対角の位置にある
タイヤに輪止めをします。

- 前輪がパンクしたときは後輪のうしろ側
- 後輪がパンクしたときは前輪の前側



2

ホイールナットレンチでナットを左に
まわし、手でまわるくらいまでゆるめ
ます。



3

ジャッキをセットし、ジャッキアップ
します。

➔ 149 ページ参照

5

タイヤを取り替えます。



注意

タイヤを取りつけるときに、ホイールの
シート部やホイール裏側の取り付け面がほ
こりなどでよごれていると、走行中にナッ
トがゆるみタイヤがはずれるおそれがあり
危険です。よごれをふきとってから取りつ
けてください。



アルミホイールのかたは直接地面に置くとき、傷が
つかないように意匠面を上にして置いてください。

4

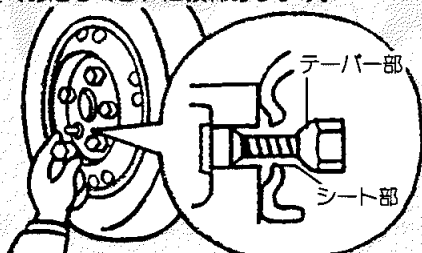
ナットを手ではずします。

6 タイヤががたつかない程度まで、手でナットを右にまわして仮締めします。

! 注意

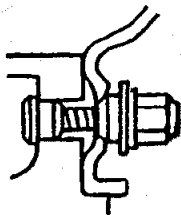
タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースをぬらないでください。必要以上に締めつけられてボルトが破損するおそれがあります。

■ スチールホイール装着車のかたは
ナットのテーバー部がホイール穴のシート部に軽くあたるぐらいに仮締めします。



■ アルミホイール装着車のかたは
—— 応急用タイヤ付き車 ——

ホイールナットを下図のように仮締めします。



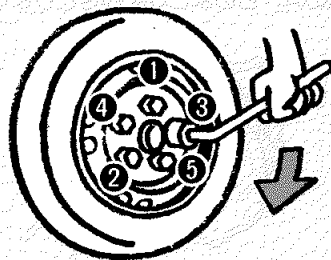
—— 標準タイヤ付き車 ——

次ページの標準タイヤにもどすときはを参照してください。

標準タイヤにもどすときは次ページを参照してください。

9 工具、ジャッキ、タイヤを片づけます。

8 ホイールナットレンチを使用して図の順序でナットを2～3度にわたり手で十分締めつけます。



! 注意

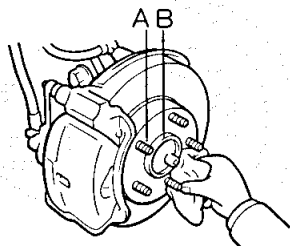
ホイールナットレンチを足で踏んでまわしたり、パイプなどを使用して必要以上に締めつけないでください。タイヤを取りつけるボルトが折れるおそれがあります。

7 ジャッキを下げます。

標準タイヤにもどすときは

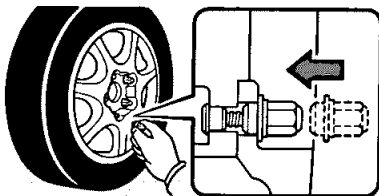
- 傷、変形があるものは再使用しないでください。
- 1,000 km走行したあとに再度ナットを締めつけ、ゆるみがないことを確認してください。
- 走行中、ハンドルや車体に振動が出た場合は、タイヤのバランスの点検をトヨタ販売店で受けてください。
- タイヤの空気圧を確認してください。運転席ドアに貼られている「タイヤ空気圧」の表を参照してください。
- タイヤを新品と交換するときは110ページを参照してください。
- アルミホイールを取りつけるときは次の手順で行ってください。

①図のA、Bのよごれをふきとります。



②アルミホイールをBの部分に確実にはめます。

③座金がホイールにあたるまでナットを手で右にまわして仮締めします。さらにホイールナットレンチを使用して手で十分締めつけます。



注意

- ナットはトヨタ純正アルミホイール専用用品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるみタイヤがはずれるおそれがあります。
- ホイールナットレンチを足で踏んでまわしたり、パイプなどを使用して必要以上に締めつけしないでください。タイヤを取りつけるボルトが折れるおそれがあります。

センターキャップの取りはずし方★

注意

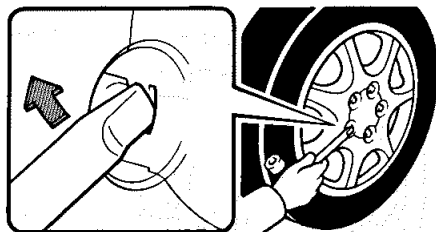
直接手をかけて取らないでください。ケガをするおそれがあります。

アドバイス

ホイールナットレンチ以外は使わないでください。

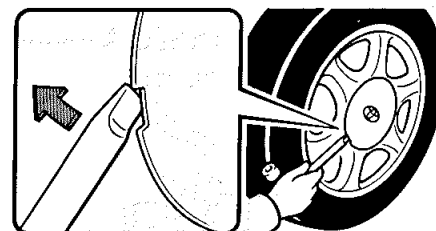
■ 15 インチアルミホイール装着車

ホイールナットレンチを切り欠きに差し込み、ホイールナットの頭部を支点にして、タイヤ側にこじります。

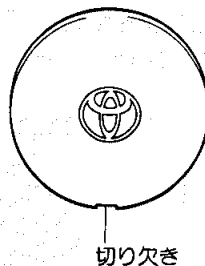


■ 16 インチアルミホイール装着車

●ホイールナットレンチを切り欠きに差し込み、タイヤ側にこじります。



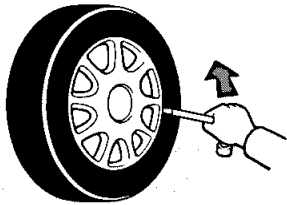
●キャップを取りつけるときは、タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きの位置をあわせませ。



切り欠き

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ホイールキャップの取りはずし方★



- ホイールナットレンチの先を差し込み、タイヤ側にこじるとはずれます。(2～3カ所、場所をかえて繰り返すと楽にはずせます。)
- ホイールキャップを取りつけるときは、タイヤのバルブ(空気口)に切り欠きをあわせてください。



注意

直接手をかけて取らないでください。ケガをするおそれがあり危険です。



アドバイス

ホイールナットレンチ以外は使わないでください。

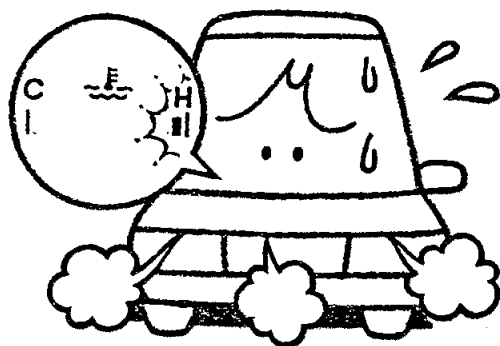
オーバーヒートしたときは

注意

- ボンネットから蒸気がでているときは、蒸気がでなくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどをしたり、思わぬケガをするおそれがあり危険です。また、蒸気がでていない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分注意してください。
- ラジエーターや補助タンクが熱いときはキャップをはずさないでください。蒸気や熱湯が吹き出してやけどをするおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。
- 冷却水は、エンジンが熱いときにいれないでください。急に冷たい冷却水をいれると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりといれてください。

処置

- 1 車を安全な場所に止めます。エアコンを使用しているときは、OFFにします。
- 2 ボンネットから蒸気がでていたらエンジンを止めます。蒸気がでていなければ、ボンネットを開けてそのままエンジンをかけておきます。
〈ボンネットから蒸気がでている場合のみ〉
蒸気がでなくなったら、風通しをよくするためにボンネットを開けエンジンをかけます。
- 3 ラジエーター冷却用のファン(3000車、2500車のみ)が作動していることやファンベルト切れの有無を確認してください。万一、ファンが作動していないときやファンベルトが切れているときはただちにエンジンを止めてトヨタ販売店に連絡してください。
- 4 エンジンが十分に冷えてから、冷却水の有無、ラジエーターのコア部(放熱部)の著しいよごれ、ごみの付着の有無、ファンベルトのゆるみなどを点検します。
詳しくは整備手帳をご覧ください。
- 5 冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。
- 6 早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。



こんな状態がオーバーヒートです。

- 水温計の表示が点滅したとき
(指針式メーターは針がレッドゾーンにはいったら赤信号)
- ボンネットから蒸気が立ちのほりエンジンの出力が低下。

オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量、地面に水漏れがないか日頃から点検を。

点検方法は「整備手帳」をご覧ください。

バッテリーがあがったときは

自 車



救 援 車

押しがけによる始動はできません。

救援車を依頼しブースターケーブルでエンジンを始動しましょう。なお、救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

1 ブースターケーブルを次の順につなぎます。

- ① 自車のバッテリーの⊕端子
- ② 救援車のバッテリーの⊕端子
- ③ 救援車のバッテリーの⊖端子
- ④ 自車のエンジン本体（フックなど）

注意

④の接続は自車バッテリーの⊖端子につながらないでください。バッテリーに直接つなぐと、火花が発生しバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。バッテリーから離れたエンジン本体などに接続してください。

2 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして。

3 自車のエンジンをかけます。

注意

バッテリーに近づかないでください。バッテリー液が吹き出すおそれがあり危険です。

4 ブースターケーブルをつないだときと逆の順にはずします。

5 最寄りのガソリンスタンドやトヨタ販売店で点検を受けてください。

注意

- ブースターケーブルを接続するとき、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。
- 火気をバッテリーに近づけないでください。爆発するおそれがあり危険です。

こんな状態がバッテリーあがりです。

- スターターがまわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ヘッドランプがいつもより暗い。
- クラクションの音が小さい。または鳴らない。

バッテリーあがりを防ぐために

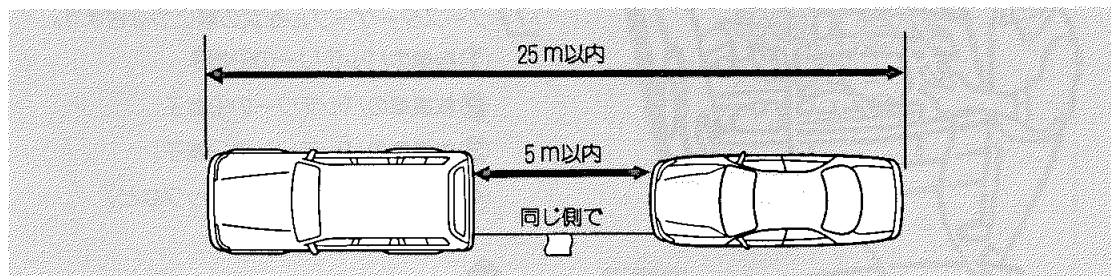
- エンジンを切ったままライトをつけたり、ラジオ、カセットを聞かない。
- エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、ときどきエンジンの回転を上げてやる。
- バッテリー液量が減っていると充電能力が低下して、寿命が短くなります。ときどき点検して液の補充を。点検方法は「整備手帳」をご覧ください。

けん引してもらうときは

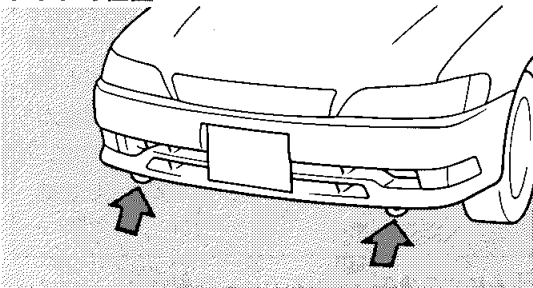
エンジンがまわっているのに車が動かなかったり、異常な音をする場合は、駆動系の故障が考えられますのでまずトヨタ販売店へご連絡ください。

ロープによるけん引

- ① ボデーに傷をつけないようにしてロープをフックにかけます。
けん引ロープには、0.3メートル平方 (0.3 m×0.3 m) 以上の白い布を必ずつけてください。



フックの位置

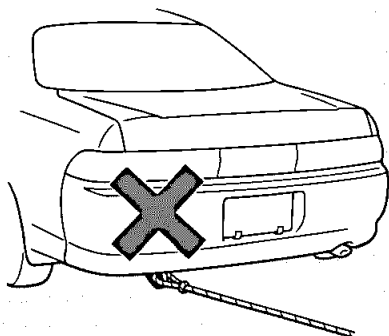


- ② チェンジレバーを①にします。
③ エンジンスイッチをACCまたはONにします。
④ けん引ロープをたるませないように前の車の制動灯に注意してください。

リヤ側フックについて

このフックは船船固縛などで車両を輸送するときに固定するためのものです。けん引には絶対使用しないでください。

この車で他車をけん引することはできません。



注意

- エンジンキーを抜いたり、エンジンスイッチをLOCK位置にしないでください。キーが抜けているとハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、事故につながるおそれがあります。また、エンジンスイッチがLOCK位置だとキーが抜けるおそれがあります。
- A/T車の場合、けん引速度は30 km/h以下、けん引距離は80 km以内にしてください。この速度、距離を超えるとトランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
- 長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。
- けん引される車は慎重に運転してください。エンジンがかかっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるため、通常と同じ感覚で運転すると事故につながるおそれがあります。

※ 4WD車にお乗りのかたは121ページもあわせてお読みください。

キーを閉じ込んでしまったときは

△ 処置

- JAFを呼ぶ。
- キーナンバーをトヨタ販売店に知らせキーを作る。

キーの閉じ込みで困らないために

- 日頃からキーを使ってロックする習慣をつける。
- バッグにスペアキーをいれておく。
- キーナンバーを控えておく。



事故がおきたときは

あわてずに次の処置をしましょう。

1

続発事故防止

2

負傷者の救護

3

警察への届け出

4

相手方の確認とメモ
(氏名・住所・電話番号)

5

ご購入された販売店と
保険会社への連絡